

序 文

経済社会のグローバル化、地球規模でのエネルギー資源の枯渇と環境破壊、人口爆発など 21 世紀に生きる我々には解決しなければならない多くの問題を抱えています。20 世紀の科学技術は資源が無限にあるという錯覚の下に、効率だけを念頭においた技術革新が行われてきましたが、21 世紀の科学技術は、有限の資源を活用して豊かさと便利さを確保、進化させ、さらにそれを子孫の世代にまで持続させるものでなければなりません。我が国における工学系研究科・工学系学部への社会の期待は大きく、我々の責務には極めて重いものがあります。名古屋大学工学研究科・工学部では、このような現代社会が必要とする科学と技術の創生をめざした教育と研究が進められ、工学研究科・工学部技術部は、平成14年度に発足した新しい組織のもとでその支援の役割を果たしてまいりました。平成16年度からは国立大学の独立法人化を契機に、全学技術センター一部局系技術支援室工学技術系として新たな一歩を踏み出し、21 世紀に必要な新たな技術の創出と名古屋大学における研究と教育の推進に対し精力的な支援活動を展開しております。

独立法人化された本学では、従来からの教育・研究内容の高度化に加えて、大学を取り巻く環境が大きく変化し、安全・衛生管理、環境保全、情報セキュリティなどの新しい業務が専門の分野を問わず必要となってきました。工学研究科・工学部技術部はこのような状況にも的確に対応するため、教員組織との強い連携のもとで、日々研鑽を繰り返して参りました。この連携と研鑽こそが本技術部の活力を支える基盤となっております。

工学研究科・工学部技術部は、各専門分野における研究・教育にかかる新技術の創出はもとより、大学の管理運営に必要な多岐にわたる全学的な諸課題について、従来からその対応に中心的な役割を果たしてまいりました。21 世紀の科学技術の創出のため、日本の基幹研究を担う大学院大学として、また、高等教育の国際拠点としての名古屋大学に対する社会の期待は極めて大きく、技術部の役割と責務は従来以上に重いものがあります。

本技術部技術報告書「技報」は、技術部の職員が、教育研究支援業務を通して会得した成果と、技術力を高めるために企画・実施した研修の成果を取り纏めたものです。技術部は名古屋大学の発展のために今後もとゆまぬ研鑽をすすめる所存でおります。皆様方には、技術部の活動に忌憚のないご意見をいただき、今後も、その活動に一層のご理解とご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

平成19年3月

工学研究科長・技術部長
澤木 宣彦